

考えよう やって良いこと 悪いこと

教室の中で

(小学生高学年用)

作：神奈川県警察本部少年育成課 小島久美子
絵：神奈川県警察本部少年育成課 平野洋子

【表紙】

○授業が始まる前に、

「やって良いことか

悪いことか

判断する力を持つ。」

「悪いことはしない

悪いことと流されない

強い意思を持つ。」

「他人の気持ちを考えて
行動する。」

の三枚の紙を黒板に貼る。



演出ノート

○子ども達に語りかける。

今日は、「やって良いこと、悪いこと」「について、皆さんと一緒に、勉強していき
ましよう。

それでは、紙芝居の話を聞いて下さい。

途中で、私が、皆さんに、

こういうときは、どうしたら良いでしょうか。

とか、

これは、悪いことでしょうか。

それとも、悪くないことでしょうか。

などと質問します。

皆さんは、話を聞きながら考え、質問に答えて下さい。

それでは、

「考えよう。やって良いこと、悪いこと。教室の中で
の始まり始まり。」



かし太君が、攻略本を読んでいるする美ちゃんのところに来て、言いました。
かし太 「する美ちゃん。何で、昨日、公園に来なかつたんだよ。」

この前、僕が貸したゲームソフト、返すって、約束をしただろう。」
ヤンキ君も、近くに来て、言いました。

ヤンキ 「そっだよ。僕たち、ずっと待ってたんだぞ。」
するじ、する美ちゃんは、

する美 「だって、急に、お母さんに留守番を頼まれちゃったんだもの。
仕方ないでしょ。」

と、強い口調で言いました。すると、かし太君は怒って、
かし太 「それなら、僕の家で電話をするべきだよ。」

黙って、約束を破るなんて、ひどいよ。」
と聞こ、ヤンキ君も

ヤンキ 「そっだよ。僕が、次に借りる約束になっているんだ。早く返せよ。」
と聞こました。

する美 「そんなこと言ったって、私だって、急に頼まれちゃったんだから。
文句があるなら、お母さんに言ってみよ。」

怒っているかし太君とヤンキ君を横目に、する美ちゃんは攻略本を読み始めまし
た。

・強い口調で

・強い口調で

・言い返すように

・非難するように

・文句を言うように

・言い返すように

かし太 「なんだよ。謝りもしないで。」

あつ、その攻略本、僕が貸したゲームソフトのじゃないか。

本当は、昨日、返す気がなかったんだろう。」

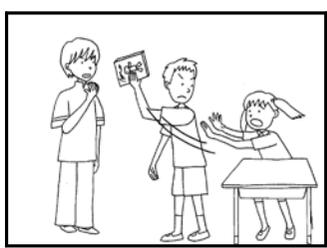
かし太君は、する美ちゃんが、約束を破っているのに、全く反省していないことに腹を立て、

かし太 「こんなもの、捨ててやる。」

と言って、する美ちゃんが読んでいた攻略本を取り上げ、走り出しました。

する美 「やめて。返して。」

する美ちゃんは、かし太君を追いかけてよかったです。



・怒った様子で

・感情的に

・あわてた様子で

ヤンキ君がする美ちゃんの前には立ちほだから、

ヤンキ 「おっと。ここは、通れませんか。」

かし太君、それ、どっかに隠しちゃえよ。行け、行け。」

と、言いました。する美ちゃんは、

ずる美 「かし太君。お願い。返して。それは、隣のお姉さんから、借りているの。」

汚したら、怒らわちゃう。」

と叫び、泣きそっす。

○ それでは、皆さんに質問します。

ずる美ちゃんは、とられた本を返して欲しいと思っていますね。

このようなとき、皆さんがする美ちゃんだったら、どのような行動をとりますか。

① 謝って返してもらおう。

② 追いかけて取り返す。

③ 先生に言う。

④ その他の方法をとる。

皆さんだったら、どうしますか。どれか一つに手をあげてください。

① 「謝って返してもらおう。」という人。

② 「追いかけて取り返す。」という人。

③ 「先生に言う。」という人。

④ 「その他の方法をとる。」という人。

○ ありがとうございます。

まず、どのような理由があろうと、約束を破ったことを謝ることは大切です。

謝って、返してもらおう。

それでも返してもらえないときは、先生など大人に相談しましょう。

自分たちだけで解決できないときは、先生などに頼り、間違いを早く正し、みんなが、正しい行動をとれるようにしていくことは大切なことです。

では、話はどうなっていくのか、続きを見ていきましょう。



・いじわるするようになら

・泣きそうになりながら

○子ども達に語りかける。

そそ香ちゃんが、通せん坊をしていたヤンキ君に、体当たりをしました。

そそ香 「ちよっと、何やってんのよ。する美ちゃんが、困っているじゃない。」

ヤンキ君は、いきなり、体当たりをされ、尻餅をついてしまいました。

ヤンキ 「いてえー。何するんだよ。」

そそ香 「する美ちゃんを、いじめているからだよ。」

そそ香ちゃんは、きっぱり言うので、ヤンキ君は、痛そうに立ち上がりながら、

ヤンキ 「何だよ。そそ香ちゃんは、関係ないだろう。でしゃばってくるなよ。」

と言いました。そそ香ちゃんは、ヤンキ君を睨み付けながら

そそ香 「もっと、やられたいの。いじめるのは、よしなさいよ。」

と、また、押し倒しそうな勢いです。

○ それでは、皆さんに質問します。

ヤンキ君は、そそ香ちゃんに、体当たりされました。そして、「もっと、やられたいの。」「と言われ、更に、暴力を振るわれそんな勢いです。

こういうとき、皆さんが、ヤンキ君だったら、どうしますか。

① やり返す。

② 逃げる。

③ 話し合う。

④ その他の方法をとる。

皆さんだったら、どうしますか。どれか一つに手をあげてください。

① 「やり返す。」という人。

② 「逃げる。」という人。

③ 「話し合う。」という人。

④ 「その他の方法をとる。」という人。

○ ありがとうございます。

暴力でやりかえすことは、いけないことです。話し合うことが、一番良い方法ですが、相手が興奮していて、話し合えないこともあります。

そういうときは、自分が何度も暴力を受けないためにも、相手に何度も悪いことをさせないためにも、逃げてその場を離れたり、助けを呼んだりしましょう。

そして、お互いに気持ちが悪くなるから、暴力ではなく、言葉を遣って、話し合いで解決ができるようになりましょう。

では、ヤンキ君達はどうしたのか、話の続きを見ていきましょう。



・ 注意するように

・ 痛そうに

・ 注意するように

・ 文句を言うように

・ 注意するように

○ 子ども達に語りかける。

そのとき、丁度、攻略本を隠そうと、下を走っていたかし太君の頭に筆箱が当たり、かし太君は、その場にうずくまってしまいました。

近くにいた先生が、走ってきて、かし太君に声をかけています。

○ それでは、この場面で、二問、皆さんに、質問します。

一問目です。

ヤンキ君は、筆箱を四階の窓から、思いっきり投げ落とし、偶然ですが、かし太君に当たり、かし太君は怪我をしました。

偶然、他人に怪我をさせた場合、その行為は、わざとではなくても、悪いことになるでしょうか。それとも、仕方のないことなので、悪くないことでしょうか。

・ 「悪いこと。」だと思う人。

・ 「悪くないこと。」だと思う人。

ありがとうございます。

○ それでは、二問目です。

ヤンキ君は、筆箱を四階から、思いっきり、投げ落としましたが、誰にも当たらなかったとします。

このような場合は、筆箱を落とした行為は、悪いことでしょうか。悪くないことでしょうか。

・ 「悪いこと。」だと思う人。

・ 「悪くないこと。」だと思う人。

ありがとうございます。

それぞれの答えは、話の中に出てきます。話の続きを見ていきましょう。



○ 子ども達に語りかける。

暫くすると、救急車が来ました。警察官も来て、かし太君に話を聞いています。

ヤンキ君は、

ヤンキ 「かし太君、大丈夫かなあ。」

と心配そうです。

すずる美ちゃんも、それには答えず、

すずる美 「何で、お巡りさんまで来たのかしら。」

と言いつつ、すそ香ちゃんも、

すそ香 「本当だ。事件でもないのに変よね。いったい、誰が呼んだのかしら。」

と、不思議そうに言いました。

かし太君は、救急車に乗り、病院に運ばれていきました。



・ 心配そうに

・ 不思議そうに

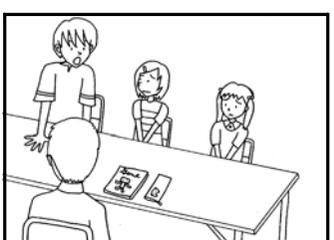
・ 同調するように

そのときです。かし太君を見送った先生が、四階の窓からのぞいていた、ヤンキ君、する美ちゃん、そそ香ちゃんの3人を見て

先生 「この筆箱と、攻略本を下に落としたのは、誰だ。」
と叫んだのです。



・ 厳しい口調で



ヤンキ君、そそ香ちゃん、する美ちゃん、それに先生の四人が、相談室にいます。先生が、言いました。

先生 「かし太君は怪我をしたぞ。

今、かし太君のおうちの人には、病院に向かってもらった。

君達は、大変なことをしたんだぞ。」

ヤンキ君は、言いました。

ヤンキ 「わざとやった訳ではありません。偶然、当たってしまっただけです。」

すると、先生は、厳しい顔をして、

先生 「わざとでなければ、許さねえと思ってるのな。

エンピツが目刺さっていたら、どうするつもりだ。

これから、みんなのお父さん、お母さんとも連絡して、学校に来てもらう

から、そのまま、111で、反省してきなさい。」

と言いました。

「お父さんやお母さんを呼ぶ。」という、先生の話を聞くと、ヤンキ君は、突然

・説明するように

・強い口調で

・ふてくされた様子で

・厳しい口調で

ヤンキ 「何で、親を呼ぶんだよ。目に刺さったって、間違いないのかよお。

　　「だいたい、警察まで呼んで、大袈裟なんだよ。」

　　「僕たち、そんなに悪いこと、してないだろう。」

と、先生のネクタイをひっぱり、怒鳴りました。

　　「そそ香ちゃんは、慌てて

そそ香 「やめて。先生に、そんなことしちゃ、ダメだよ。」

　　「と言い、ヤンキ君の腕をつかんで止めました。」

　　「先生は、ヤンキ君をじっと見つめ、

先生 「自分の思い通りにならないから、やっているのか。」

　　「丁度、お巡りさんが来ているから、先生のネクタイを引っ張ることは、や
　　つて良いことか、悪いことか、聞いてみなお。」

　　「そう言いつつ、相談室を出て行ってしまいました。」

○ それでは、皆さんに質問します。

　　「ヤンキ君は、先生のネクタイを引っ張りました。これは、悪いことですね。」

　　「では、このような行為は、犯罪になるでしょうか。それとも、犯罪にはならない
　　でしょうか。」

・ 「犯罪になる。」と思う人。

・ 「犯罪にはならない。」と思う人。

　　「ありがとうございます。」

　　「この答えと、それから、『お巡りさんは、誰から通報を受けて、学校に来たのか。』
　　についても、答えは、話の中に出てきます。」

　　「では、話の続きを見ていきましょう。」



・ 感情的に

・ あわてた様子で

・ 厳しく落ち着いた口調で

○ 子ども達に語りかける。

しばらくすると、救急車の近くにお巡りさん、先生、それぞれのお父さんやお母さん、それに、治療を終えて帰ってきた、かし太君とお母さんが、相談室に入ってきました。

ヤンキ君が、かし太君の姿を見ると、直ぐに声をかけました。

ヤンキ 「かし太君、大丈夫。」

かし太 「うん。まぶたが切れただけだよ。

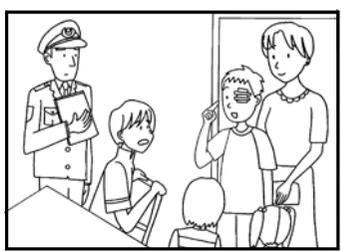
目に刺さっていたら、一生、目が見えなくなったかもしれないだって。

そんなことにならなくて、良かったよ。

それにしても、誰だよ。あんなところから、筆箱を落とす奴は。」

ヤンキ君は、自分のお父さんの顔をチラッと見ながら、言いました。

ヤンキ 「僕だよ。かし太君、ごめんね。」



・心配そうに

・説明するように

・素直に

ヤンキ君のお父さんが、目を吊り上げて言いました。

ヤンキ父「ヤンキ。お前か。先生にも、暴力をふるったと聞いたぞ。」

ヤンキ君は、お父さんの大声に、肩をすぼめて言いました。

ヤンキ「だって、そそ香ちゃんか、突然、僕に体当たりをしてくるんだ。

だから、そそ香ちゃんの筆箱を窓から捨てたんだ。

やり返したただだよ。」

ヤンキ君のお父さんは、ヤンキ君の話を聞くと、今度は、諭すように言いました。

ヤンキ父「ヤンキは、頭にくると、後先考えず、行動するから、こんな大変なことになるんだ。

いいか。行動をする前に、やって良いことや、悪いことをしっかり判断して、正しい行動をとらなければならぬ。

かし太君、かし太君のお母さん、怪我をなせてしまい、申し訳ありません。

先生にも、ご迷惑をおかけしました。」



・大きな声で

・言い訳するように

・諭すように

○文字を指す。

「やって良いことや

悪いことや

判断する力を持つ」



そそ香ちゃんのお母さんが言いました。

そそ香母 「そそ香が、いけないのよ。」

だいたい、暴力を振るうなんて、とんでもないわ。」

すすむ、そそ香ちゃんは、胸を張って言いました。

そそ香 「だって、ヤンキ君が、すすむ美ちゃんを通せん坊して、いじめていたんだも

の。」

すすむ美ちゃんも、そそ香ちゃんのお母さんに向かって言いました。

すすむ美 「そっなんです。」

私が、かし太君に本を盗られたり、ヤンキ君に通せん坊をされて、いじめ

られていたとき、そそ香ちゃんが、助けてくれたんです。」

その話を聞くと、そそ香ちゃんのお母さんと、

そそ香母 「いい。暴力を振るうのは、悪いことよ。」

『友達を助けてほしい。』とか『頭にきた。』とか、どんな理由があっても、暴

力を振るえば、自分も悪いことをしたことになる。どんなときでも、悪い

ことをしなさい、悪いことを流さなさい、強い意思を持ちなさい。」

と聞こえた。

・叱るように

・自信たっぷりに

・説明するように

・諭すように

○文字を指す。

「悪い」とはしない

悪いことを流さな

強い意思を持つ」

このとき、先生が、する美ちゃんに聞きました。

先生 「する美ちゃん。学校には、攻略本など、授業に必要ない物は持ってきてはいけないの知っていますね。」

何故、学校に持ってきたのですか。」

する美ちゃん は、みんなが、一斉に自分を見たので、正直に話しました。

する美 「実は、かし太君に借りたゲームソフト、とうしても、攻略したくて…」
その話を聞くと、

かし太 「やっぱり、わざと返さなかったんだな。」

と、かし太君は言い、する美ちゃんを睨みつけながら、みんなに説明するのやめろ、と言いました。

かし太 「昨日、する美ちゃんから、ゲームソフトを返してもらった約束だったんです。

それなのに、約束の公園には来ないし、今日は、謝りもしないで、攻略本を読んでいるから、頭にきつ、いじめようと思ったんです。

それで、攻略本を取り上げて、どこかに隠してました、隠し場所を探していたとき、筆箱が頭に当たったんです。」

かし太君の説明を聞き、そそ香ちゃんは、言いました。

そそ香 「それじゃあ、する美ちゃんが悪いよ。」

ヤンキ君、事情も知らずに、体当たりなんかして、いじめな。」

する美、かし太君のお母さんが言いました。

かし太母 「かし太も、悪いよ。」

する美ちゃんをいじめたから、こんな目に遭ったんだよ。」

約束をやぶられたり、嘘をつかれたり、嫌な思いをされたら、さうさうあるものよ。

でも、だからと言って、いじめは、さすなさいよ。」

自分がやらわれて嫌なことは、絶対、人にやってほしくないよ。」



・質問するように

・言い訳するように

・怒ったように

・みんなに説明するように

・驚いたように

・反省した様子で

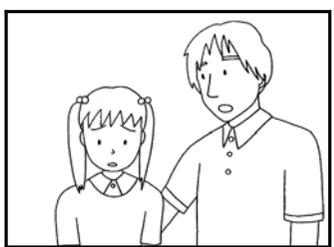
・叱るように

ずる美ちゃんのお父さんが言いました。

ずる美父「ずる美は、かし太君やヤンキ君の気持ちを考えたのか。

『自分さえよければいい』という行動は、周りの人を不愉快にさせるんだぞ。

他人の気持ちを考えて行動できるようにならないと駄目だ。」



・叱るように

○文字を指す。

「他人の気持ちを考えて行動する」

ずる美ちゃんは、みんなの方を向き、

ずる美 「ごめんなさい。」

と謝りました。ずる美ちゃんのお父さんも、

ずる美父 「ずる美のわがままで、こんなことになってしまい、本当に、申し訳ありませんでした。」

かし太君には、怪我をさせてしまい、すみません。」

と、みんなに謝り、かし太君とかし太君のお母さんに、深々と頭を下げました。

○ 皆さん、ここでは、ずる美ちゃんのお父さんの気持ちを考えてみましょう。

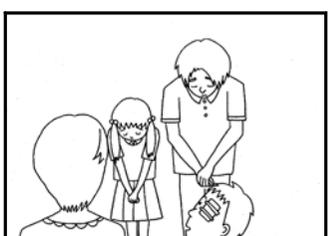
ずる美ちゃんのお父さんは、よそのお父さん、お母さん、子ども達に謝りながら、どのような気持ちになっているでしょうか。

答えてくれる人は、手を挙げて下さい。

○ 親は、子どもの行動に、責任を持たなくてははいけません。

自分の悪い行動で、おうちの人が、謝ったり、相手の人に文句を言われたら、皆さんは、どんな気持ちになりますか。

おうちの人に、迷惑をかけたためにも、やって良いことが、悪いことをしっかり判断し、正しい行動をとりましょう。



・ 反省した様子で

・ 神妙に

○ 子ども達に語りかける。

○ 文字を指す。

「やって良い」ことか

悪いことか

判断する力を持つ」

お巡りさんが、言いました。

警察官 「四人には、学校が終わったら、警察署に来てもらいます。」

とりあえず、保護者の方もいらしてほしいのよ、警察よって、今回のそわそ

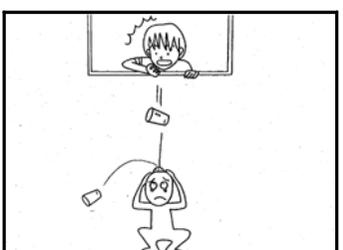
れの行跡が、『犯罪になる可能性がある。』とこのことを説明しています。」

と前置きをして、言いました。

警察官 「まずは、ヤンキ君だ。」



・説明するときに



警察官 「注意をして行動すれば、かき太君の怪我は防げたのではないかな。」

『わざとではない。』と言っても、注意不足で他人に怪我をさせたら、過失

傷害罪になることがある。」

・説明するように

○文字を示す。

「過失傷害罪」

警察官 「それから、筆箱が人にぶつからなかったとしても、軽犯罪法違反になるんだよ。」

高いところから、注意もしないで、危ない物、重い物などを投げたら、危険だろう。だから、たとえ人が怪我をしなくても、危ない行為だから、法律で、禁止されているんだ。」

ヤンキ君は、言いました。

ヤンキ 「えー。いけないことだなんて、知りませんでした。」

更に、お巡りさんは、言いました。



○文字を示す。
「軽犯罪法違反」

・驚いた様子で

警察官 「もうひとつ、説明するよ。」

先生のネクタイを引っ張る行為は、暴行罪という犯罪だ。

頭にきたからと、ロッカーなどを蹴飛ばして壊したり、ガラスを割ったりすれば、器物損壊罪になる。

それから、脅かしてやるうと、ナイフなどの危ない物を持ち歩くことも犯罪になるんだよ。」

お巡りさんの説明を聞くと、ヤンキ君は素直な気持ちで言いました。

ヤンキ 「あ、いねからあは、まぢんと、やって良いことか、悪いことかをきえて、

それから行動します。」

警察官 「よし、お巡りさんとの約束だよ。」

お巡りさんは、そう言いつつ、次「そそ番ぢゃんを思て、言いました。



○文字を示す。

「暴行罪」

「器物損壊罪」

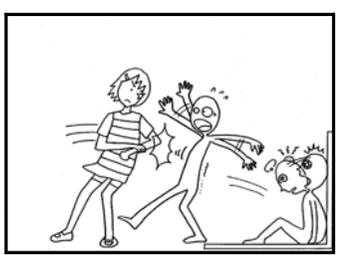
・ 真剣な口調で

○文字を指す。

「やって良いことか

悪いことか

判断する力を持つ」



警察官 「次は、そそ香ちゃんに説明するよ。」

体当たりすることは、暴力だ。

他人に暴力をふるえば、暴行罪。怪我をさせれば、傷害罪になる。

暴力をふるうことは、悪いことなんだよ。」

そそ香 「ごめんなさい。ヤンキ君。痛かったよね。本当にごめんね。

もう、友達を、ぶったり、押したり、わざとぶつかったりはしません。」

そそ香ちゃん言葉を聞くと、更「、お巡りさんは言いました。

・説明するように

○文字を示す。

「暴行罪」

「傷害罪」

・反省した様子で



・説明するように

警察官 「や、や、や、この下でフマなど、中学生や高校生が、正義や友情を守るために喧嘩や乱闘している場面があるけれど、現実には、そんなことがあったら警察は、全員を捕まえているよ。

当たり前のことだけ、や、や、や、ゲームと、現実を区別するよ。

どんな理由があっても、暴力は悪いことだ。

話し合って、解決できる方法をいろいろ考えようよ。

そそ香ちゃんはお巡りさんをつかさどって、言いました。

そそ香 「はい。いだから、お巡りさん、暴力は、話し合います。

お巡りさん、

警察官 「よし。約束したよ。」

と、次に、する美ちゃんを見ました。

・真剣な口調で

警察官 「次は、する美ちゃんに説明するよ。」

借りた物を返さず、自分の物にしてしまえば、横領罪になる。

黙って取れば、窃盗罪。だまして盗れば、詐欺罪。

他人の物を、無断で自分の物にしたら、どんな場合も犯罪になるんだよ。」

する美ちゃんは、訴えるような顔をして言いました。



・説明するように

○文字を示す。

「横領罪」

「窃盗罪」

「詐欺罪」



・言い訳するように

ずる美 「いじめなやつ。」

「その昔、お母さん、お父さん、『とてつ気持ちはありませんでした。』

信じてたやつ。」

お母さん、お父さんのお父さん、お母さん、

ずる美父「ずる美。約束を破ったこと、お母さん、お父さん、信じてもらえなかつたよ。」

約束を守ってほしいよ、が、周りの人に信用されたり、信頼されるよ、

しながってごめんだよ。」

と教えました。

・諭すように

ずる美 「は。」

「じゃあ、みんな信じてもらえないよ、絶対に、約束を守ります。」

・真剣な口調で

ずる美ちゃんと言いつつ、お巡りさんだよ、

警察官 「ただ、ずる美ちゃんは、嘘をつかないで、『わざと約束を破ったこと。』を

正直に話すことができたね。」

・優しい口調で

人は、間違えてしまつてもある。そのとき、嘘をつかず、正直に話して、

あやまり、反省するよ、は、大事なよ、だ。

戻って来たね。」

そつと言いつつ、最後は、かし太君に回かかって言いました。

・



警察官 「かし太君、他人の物を隠すことは、器物毀棄罪^{きき}になる。

他人の物を汚したり、破いたりすることも同じだ。

持ち主は、いつもどおりに使えないと困るだろう。だから、そういうことは、やってはいけないと法律で決められているんだ。

『友達が約束をやぶった』など、理由があっても、悪いことをすれば、それは、自分で責任をとることになるんだよ。」

かし太 「えっ。僕も、そんなに悪いことをしていたんだ。」

かし太君は、自分は、悪いことはしていないかと思っていたので、驚きました。

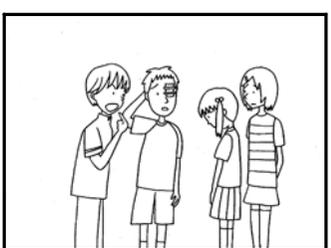
でも、直ぐに、みんなに向かって言いました。

・説明するように

○文字を示す。

「器物毀棄罪」

・驚いた様子で



かし太 「最初に、僕が、ずる美ちゃんと話し合えば、こんなことにならなかったん

だ。みんな、ごめんね。」

ずると、ヤンキ君が言いました。

ヤンキ 「何、言っているんだよ。僕のせいで、かし太君が、怪我をしたんだ。

僕が、一番悪いよ。かし太君、それから、先生、ごめんなさい。」

ずる美ちゃんが言いました。

ずる美 「一番悪いのは、私だわ。

約束を守っていれば、こんなことにならなかった。

みんな、ごめんなさい。」

そそ香ちゃんも言いました。

そそ香 「私も悪い。仲裁するつもりだったのに、暴力を振るうなんて、仲裁になん

てならない。

きちんと、話を聞くべきだった。ごめんなさい。」

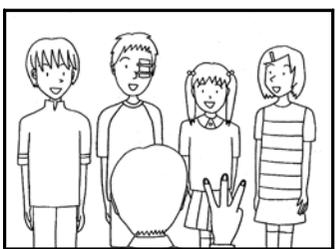
子ども達の話を聞き、先生が言いました。

・反省した様子で

・反省した様子で

・反省した様子で

・反省した様子で



先生

「お父さんやお母さんは、とても大切なことを三つ教えてくれたよ。

- ・ やって良いことが、悪いことを判断する力を持つ。
- ・ 悪いことはしない、悪いことに流されない、強い意思を持つ。
- ・ 他人の気持ちを考えて行動する。

この三つのができれば、

- ・ 約束を守る。
- ・ 暴力を振るわない。
- ・ いじめをしない。

など、いつも正しい行動がとれるし、みんなが、気持ち良く生活を送れる。

みんな、この三つのこと、できるかな。」

四人は、先生の顔をしっかりと見て言いました。

児童四人「はい。約束します。」

先生 「そうか。

今、先生と、それから、お父さん、お母さん、お巡りさんとも約束したぞ。

しっかりと、守っていますよ。」

・ 教えるように

○ 文字を指す。

「やって良いことが

悪いことが

判断する力を持つ」

「悪いことはしない

悪いことに流されない

強い意思を持つ」

「他人の気持ちを考えて

行動する」

・ 真剣な口調で

・ 確認するように

こうして、お巡りさんと一緒に、四人とそれぞれのお父さん、お母さん、それに先生も、警察署に向かいました。

これで、「考えよう やって良いこと 悪いこと」教室の中で「の紙芝居はおしまひです。

(時間があるときは、振り返りをしましょう。)

○ 皆さんも、生活の中で、腹が立ったり、頭にきたりすることがあると思います。どんな理由があっても、暴力は悪いことです。

腹が立ったり、頭にきたときは、その場を離れたり、時間を置いたり、深呼吸をしたりして、自分の気持ちが落ち着くのを待ちましょう。

そして、気持ちが落ち着いてから、自分の思いを相手に伝えるなど、話し合いで解決できるようになりましょう。

○ 今日は、いろいろな行為が法律で禁止されていることを勉強しました。子どものやった悪い行為を謝る、親の気持ちも想像してみました。

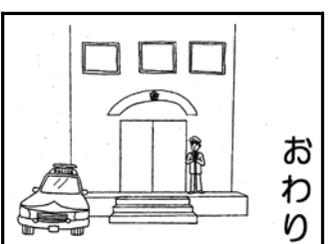
○ そして、お父さんやお母さんが教えてくれた大切な三つのことも学びました。いじめや暴力をなくすためにも、これらを常に心がけて、行動していきましょう。では、大切なことなので、みんなで声を合わせて読んでみましょう。

- ・ やって良いことか、悪いことか、判断する力を持つ。
- ・ 悪いことはしない、悪いことに流されない、強い意思を持つ。
- ・ 他人の気持ちを考えて行動する。

○ ありがとうございます。これは、大人になっても、とても大切なことです。しっかりと身につけて、いつでも正しい行動がとれ、他の人に優しくできる、素敵なお兄さん、お姉さんになって下さい。

それでは、これで「考えよう やって良いこと 悪いこと」の勉強をおしまいにします。

おしまひ



おわり

○子ども達に語りかける。

○文字を指す。

「やって良いことか

悪いことか

判断する力を持つ。」

「悪いことはしない

悪いことに流されない

強い意思を持つ。」

「他人の気持ちを考えて

行動する。」